

生活科学系コンソーシアム会議（第2回）議事録（案）

日時：平成19年10月17日（水） 10：30～12：20

場所：日本学術会議5-A会議室（1）

出席者：

コンソーシアム構成8学会より9名

国際服飾学会（田中俊子）

日本衣服学会（阿部栄子）

日本栄養・食糧学会（近藤和雄）

日本家政学会（沖田富美子：佐々井啓氏の代理として）

日本家庭科教育学会（鈴木敏子）

日本消費者教育学会（阿部信太郎）

日本食生活学会（菅原龍幸、松本仲子）

日本調理科学会（和田淑子）（敬称略）

日本学術会議 健康・生活科学委員会 生活科学分科会委員 7名

江澤郁子、沖田富美子、春日文子、片山倫子、佐藤和人、渋川祥子、白澤政和

（敬称略、五十音順）

事務局：川上、渡邊（敬称略）

資料：生活科学系コンソーシアム会議（第1回）議事録

生活科学系コンソーシアム 規則骨子（案）

生活科学系コンソーシアム名簿

日本学術会議パンフレット（活動の軌跡—平成18年10月～平成19年9月）

日本学術会議協力学術研究団体申込書

議事内容

1. 開会挨拶

生活科学分科会 片山委員長より挨拶があり、以降の議事はコンソーシアム渋川会長により進行された。

2. 前回議事録の確認

- 本日欠席の日本食品衛生学会、日本生活学会を含め、現在、10学会が参加しているとの報告があった。
- 資料を参照しつつ前回議事録について解説があり、承認された。
- 前回議事録作成後に、1) 日本学術会議健康・生活科学委員会議事録のコンソーシアムへの配布が承認され、コンソーシアム構成学会へ配布されたこと、2) コンソーシアムの今後の活動に関するアンケートを実施したところ、3学会から回答があったこと、が報告された。

3. 規則骨子（案）について

- 施行日を2007年7月18日とし、「生活科学系コンソーシアム 規則」とした。

4. 分担金について

- 各学会から拠出予定の口数（一口5,000円）について報告、討議が行なわれた。一部の学会には、コンソーシアム会長としての希望口数を再検討いただくことになった。
- 口数はできるだけ早期に決定することとした。

- 本分担金はコンソーシアム維持の基礎資金であり、各活動にあたっては、構成学会から応分の負担をいただくことを再確認した。

5. コンソーシアムの活動について

規則第4条〔事業〕に沿って、活動についての討議を行なった。

- 総会
 - ・ 来年5～6月に第1回総会を開催、その後、年1回開催
 - ・ 構成学会の会長と連絡担当者、日本学術会議生活科学分科会委員が出席
 - ・ 内容は、前年度の活動と会計の報告と、当年度の方針について
- 構成学会の活動に関する情報交換
 - ・ 最近の事業、来年度の予定について、各学会より報告を行なった。
- シンポジウム等の開催
 - ・ 渋川会長より、コンソーシアムとしてのシンポジウム開催には、1) コンソーシアム主催（学会等共催・後援）と、2) 学会等主催、コンソーシアム共催・後援の2通りあるとの説明があり、1) は時期尚早のため2) が模索できないかとの提案があったが、コンソーシアム自体の存在と意義が認知されていないと、学会としては共催や後援を依頼しにくいのではないかとの意見が出された。2) の場合も、コンソーシアム側から主体的に提案する必要があるとの意見も出された。
 - ・ コンソーシアムが関わる場合には、原則として日本学術会議生活科学分科会が共催や後援として関わることとした。
 - ・ コンソーシアム主催と次項の日本学術会議生活科学分科会主催とが区別しにくいとの意見が出され、補足説明があった。
- 日本学術会議の活動に対する支援と協力
 - ・ 渋川会長より、平成20年7月5日（土）、日本学術会議講堂において、「子どもたちに生活科学を！—家庭科の魅力と可能性—（仮題）」のテーマにより、日本学術会議生活科学分科会主催シンポジウムを企画していることについて、またその計画がより具体化した時点でコンソーシアムに協力を提案したいとの報告があった。
- 構成学会による活動の促進に貢献する事業
 - ・ 具体的には未定である。

6. その他

- 日本学術会議協力学術研究団体への申請を行なうことが承認された。
- 生活科学系コンソーシアムとしてのHP立ち上げについて、検討を開始することとなった。
- 次回は、来年3月頃開催するよう、日程調整を行なうことになった。

以上